



「希望」の「希」と昼のラクダ



夜のラクダと「希望」の「望」  
ラクダの大きさを車と見比べて下さい

## 水田に巨大ラクダ現る

総合技術普及センター

「美味しい米、梨北米」で有名な北杜市では、「第28回国文化祭・やまなし2013」に向けたイベント事業として「稲絵アート」を実施しており、県では栽培技術等の支援を行っています。

図柄は、沿線の平山邦夫シルクロード美術館にちなんで、昼と夜に砂漠を歩く「ラクダ」の絵と「希望」という文字で、東日本大震災の被災者の方々への応援メッセージが込められています。

小淵沢町内のJR小海線沿線の水田には、通常の稲の中に「紫稲」が植えられ、緑と紫の鮮やかな色彩が見事です。この稲絵は、稲が収穫となる10月上旬頃まで楽しむことができますので、是非一度、車窓から稲絵アートをお楽しみください。



■中央自動車道…小淵沢ICから車で3分  
■中央本線…小淵沢駅から車で10分

## 台湾輸出向けモモの害虫防除・適正選果に向けた取り組み

果樹技術普及センター

果樹技術普及センターでは、関係機関と連携する中で、新たな販路拡大とブランド化を図るため、台湾向けのモモ輸出促進に向けた支援を行っています。

特に、モモシクイガを中心とした害虫が発生しないように、害虫防除指導や、害虫の被害果実を見落とさない適正な選果指導の徹底を進めてきました。

害虫防除指導については、モモシクイガのフェロモントラップ調査結果や生育・気象状況（ゲリラ豪雨など）を考慮し、害虫防除情報を作成して、JAと連携し指導の徹底を図りました。

適正選果指導については、研修会での害虫の生態や防除、被害果実などの説明、選果施設の巡回による選果体制や選果時の害虫発生の確認作業等の指導を行い、適正選果の徹底を図ってきました。

今後も関係機関と連携する中で、適切な害虫防除や選果の指導に取り組めます。



選果研修会での防除指導



選果施設での選果作業の確認

## 農業生産工程管理(GAP)手法をとりいれてみませんか

県では、消費者の食の安全・安心に対する関心が高まる中、農産物の安全確保に向けた取り組みとして、JAグループと連携しながら、生産部会等でのGAP手法の導入、定着の推進をしています。

農業生産工程管理(GAP)手法とは、農業者自らが、食品の安全確保、品質の改善、環境保全、労働安全、経営改善等の様々な目標を達成するための農業生産工程における一連のプロセスチェックを指します。

1. 農作業の点検項目を決定……………計画段階
2. 点検項目に従い農作業と記録……………実践段階
3. 記録した内容を点検・評価・改善……………点検・評価段階
4. 改善点を見直し次の栽培に反映……………見直し・改善段階

これらの4つの段階を繰り返して取り組むことにより、安定的な農業経営につなげていきます。

生産部会や、生産法人等でGAP手法の導入を考えている場合は、最寄りの地域普及センター等へご相談ください。

# 山梨県普及センターだより

Yamanashi Agricultural Extension Service Information

●編集/発行 山梨県総合農業技術センター ●住所 甲斐市下今井1100 〒400-0105  
●Tel.0551-28-2496 ●Fax.0551-28-4909  
●URL.http://www.pref.yamanashi.jp/sounou-gjt/  
●E-mail.sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

**No.18**  
平成24年  
9月20日発行

## コントラクター組織を利用した自給飼料の確保を

(飼料受託生産組織)

畜産技術普及センター

アメリカ中西部の穀物地帯を中心に56年ぶりとなる大規模な干ばつが広がっています。被害の範囲は国土の6割以上に及び、世界的な穀物の供給に混乱が生じることが懸念され、すでにトウモロコシや大豆の先物価格は、この2か月あまりの間に歴史的な水準にまで高騰しています。

国内でもトウモロコシや大豆と連動して値上がりしている輸入の小麦価格の引き上げが決定しています。こうした状況の中、畜産農家においては、予想される飼料価格の高騰に対応し、今まで以上に自給飼料の確保に努め、経営の安定化に向けた取り組みを行う必要があります。そのためには、飼料の量的な確保だけでなく飼料の品質や家畜に必要な栄養価にも配慮することが必要です。

飼養頭数の規模拡大が進む一方で、飼料生産面積の拡大は進まない状況がみられていますが、労力や機械確保の問題から自給飼料生産を断念している場合は、コントラクター（飼料受託生産組織）を活用して粗飼料を確保することも一つの方法です。

中北地域で生産されている稲発酵粗飼料(WCS)は、乳用牛に現物で10～12kg程度給与することが可能です。肉用肥育牛に用いた場合も採食量が多く増体にも優れています。水稻農家と畜産農家が連携し、WCSを生産・利用することにより、米の計画生産を行い、安定した自給飼料の確保が図られることで畜産経営の低コスト化にも繋がります。また、耕作放棄地等を始め有休農地を活用し、収量や粗飼料品質に優れた飼料用トウモロコシの生産拡大を図ることなども検討する必要があると考えられます。

アメリカ海洋大気局によると今後も降水量は少なく、干ばつは11月まで続く予想であることから、今後は、これから作付けの時期を迎える南半球の気候にも注視し、県産の自給飼料確保に向けた取り組みを進めていくことが必要です。

飼料の生産について、ご相談、ご質問がある場合は畜産普及科までご連絡下さい。



WCSの収穫状況



トウモロコシの収穫状況

## 青年就農給付金(準備型)二次募集開始!!

今年度から県が認めた研修機関において研修を受ける就農希望者を対象に、予算の範囲内で年間最大150万円を給付する「青年就農給付金」事業を実施しています。この度、給付対象者の二次募集を行うこととし、締め切りは10月10日までとなっています。応募要件や研修計画作成など、詳しくは、農務事務所(地域普及センター)、総合農業技術センター農業技術普及部(総合技術普及センター)、果樹試験場普及部(果樹技術普及センター)、担い手対策室へお問い合わせください。

なお、平成20年以降に就農された方を対象とした青年就農給付金(経営開始型)については、居住地もしくは就農先の市町村にお問い合わせください。

参考:担い手対策室ホームページ [http://www.pref.yamanashi.jp/ninaite/seinen\\_shuno\\_kyuhukin\\_boshu.html](http://www.pref.yamanashi.jp/ninaite/seinen_shuno_kyuhukin_boshu.html)